



行動経済学・実験経済学の手法を用いて、健康増進、環境保全、地域活性化など持続可能な社会課題の解決

地域包括ケア教育研究センター 講師 赤井 研樹

私は、行動経済学・実験経済学の手法を用いて、健康増進、環境保全、地域活性化など持続可能な社会課題の解決に取り組んでいます。例えば、高血圧予防のため減塩を促す効果的な情報提供方法など患者の行動変容に関する研究を行い、「ナッジ」と呼ばれる行動経済学の知見を医療現場で活用する提言を行っています。また、働き盛り世代の社会的孤立を防ぐため相互信頼にもとづく生産システムやセーフティネット（社会保障制度）の設計に取り組み、地域包括ケアの再構築や地域経済の活性化に資する研究も展開しています。さらには、希少生物の保全と食料・農業・環境の持続可能な両立を目指した経済システムの構築や、地球温暖化と生物多様性に配慮したバイオマスエネルギー活用など、環境と経済の調和を図る研究にも従事しています。これらの研究成果を社会へ発信することにも熱心で、地域の医療関係者向けに行動経済学によるヘルスプロモーションの解説をしたり、海外の大学で「環境と健康問題を行動経済学で考える」と題した招待講演を行うなど、教育・社会連携活動にも積極的に取り組んでいます。

